



22春闘 要求実現に向けて これが組合員・社員の声だ！

- ・コロナ対応や多様な働き方を目指す中で、一人ひとりの業務の種類と量が間違いなく増えていて、仕事量は確実に増えている。それなのに賃金が下がるのは納得できない。仕事量が増えているのであれば、それに見合った賃金を支払うべきだ！
- ・汗を流して働く社員一人ひとりが会社を支えているのだから賃金で私たちに報いて欲しい
- ・柔軟な働き方を進める上で現在の業務+ α + β …と役割が増えているのだから賃金が増えるのは当然である
- ・強引な労働強化をして柔軟な働き方と言いくるめても、賃金に反映しないどころか、いかに人件費を削り、社員に負担させるか？賃金がさらに目減りしていく労働環境づくりが、今後JRを担って欲しい若い子達に魅力的に映るとは思えない
- ・仕事の負担は増えているのに給料が増えないのでは、働きがいも何もあったものではない！
- ・コロナや休業で半分の要員体制になっていて業務量が増えている。一部の人や部署にかなりの負担がかかっている
- ・効率化や、テレワークといった慣れない環境でも、JR東日本の安全を守る強い志で働いている
- ・少ない人数で業務をまわしている現状があり、負担は大きくなるばかり。テレワークで家にいる時間が長くなることで光熱費などの費用が増えている
- ・仕事は増えて、賃金が減らされている。職場の労働環境も悪くなる一方。毎日、何も考えること無く、仕事を淡々とこなすことの繰り返しに嫌気がさし疲れた

労働実感

- ・業務の効率化、生産性向上のスピードが早く対応するのについていくのが精いっぱいである
- ・給料を上げずに少ない要員で多くの仕事をさせようとしているが、誰でも嫌になるのは当然である
- ・業務の効率化というわりには逆に負担が増えている。モチベーションが低下し安全、注意力が低下している
- ・この変化のスピードにお客さまも対応できるとは思えず、そのしわ寄せが現場にきて負担が多くなる
- ・効率化により要員が減らされ一人に対する仕事量が増えた。これでさらに要員を減らされると年休が入りづらくなり、ゆとりがなくなる
- ・様々な施策で人を減らす方向に進んでいる。少ない人数で今まで通りの仕事をさせるのはナンセンス。
- ・システム化しているというが、それを使いこなすまでかなりの労力を必要としている。さらにはそのシステムが使い物にならない現状であり逆に手間がかかる
- ・コロナ感染のリスクや不安を負いながらも、公共交通機関としての使命を担ってきた。また、職場で感染者を出しながらも運休することなく列車を動かしてきたのは現場の努力以外の何物でもない。コロナ前より我々の負担は間違いなく増えている。それなのに昨年はベア0に定期昇給もカットされモチベーションが上がるはずありません。私達の仕事の価値はそんなものだったのか。会社に見切りをつける若手がでてるのは社員を大切にしない会社であるという表れだと思います

**仕事量が増加しているのだから賃金も上がるのは当然だ！
安心して生活するためには満額回答が必要だ！**